

サイバーポート本格始動

港湾の電子化

9月にデジタル庁が発足するなど行政のデジタル化を推進する動きが加速する中、国土交通省港湾局は4月1日から、港湾の電子化に向け、港湾関連データ連携基盤「Cyber Port（サイバーポート）」の第1次運用を開始した。

サイバーポートは、紙や電話、メールなどで行われている民間事業者間の港湾物流手続きを電子化することで、業務を効率化し、港湾物流全体の生産性向上を図るプラットフォーム。

利用者は、輸出入の諸手続きをシームレスに行えるようになるほか、進捗状況を可視化し、トレーサビリティ（履歴追跡）を確保できるのが特長だ。

港湾局は2025年度までに約650社に利用企業を拡大することを目標に掲げている。

サイバーポートの機能は、4月に運用を開始した「港湾物流分野」と、港湾に関わる各種行政手続きに

関する「港湾管理分野」、施設情報などの「港湾インフラ分野」の計3機能で構成している。

「港湾物流分野」では、3月12日からポータルサイト上で参加申請受け付けを開始。動作性

や利用効果を

実証し、港湾

物流に関わる

利用効率化や

商習慣改善と

いった先導的

な取り組みを

後押しする

「サイバーポ

ート利用促進

・運用効率化

実証事業」に

ついても公募

を開始してい

る。

サイバーポ

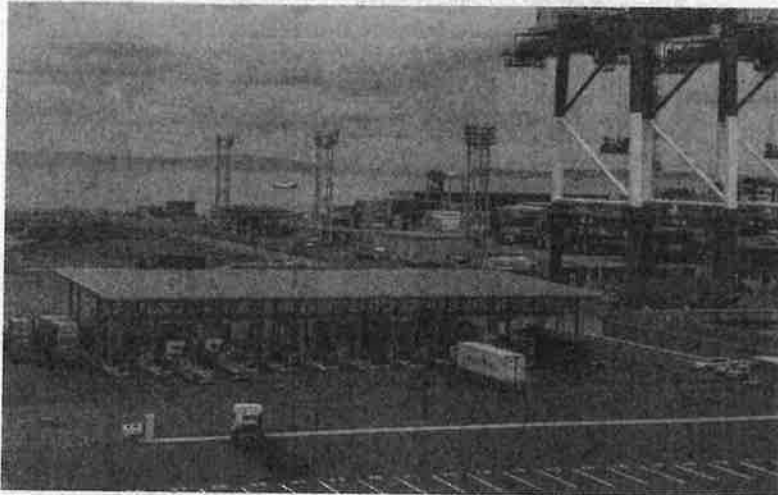
ートは、同じ

く4月から本

格稼働を開始

した新・港湾

情報システム



CONPASSの本格稼働を開始した横浜港・南本牧埠頭のゲート

「CONPASS（コンパス）」とも連携しており、

サイバーポートで電子化した

搬入情報と、ターミナル

保有情報とをCONPASS

で事前照合することで、

ゲート処理時間の短縮効果

も期待されている。

国土省港湾局は、システ

ムの効率的な運営に向け、

現在参加事業者の拡大を推

進しており、具体的な利用

や操作方法、メリットなど

について説明していくほ

か、今後ポータルサイトに

システムの概要や、動画に

よる説明などを掲載する方

針だ。

また、NACCS（輸出

入・港湾情報処理システム）

との直接連携の早期実現に

向け、NACCSセンター

などと協議しており、今年

度早期に連携の方向性が固

められるようにするとし

ている。

ほかにも、NACCS以

外にもサイバーポート内の

3分野の垣根を越えたシス

テム連携や、Collins

（コリンズ、コンテナ物流

情報サービス）などの連

携も検討を進める。

「港湾管理分野」では、

昨年度検討した機能の素案

を基に、今後港湾管理者や

関係民間事業者へのヒアリ

ングを実施。港湾行政手続

きと調査・統計業務の双方

で全体の業務フローや現場

の作業内容、課題などを明

らかにし、システムの業務

範囲や機能の深掘りを行う

予定だ。

今年度下期以降には、そ

の結果を基に、システムの

設計・構築などを行う予定

だという。

「港湾インフラ分野」で

は、今年度にプロトタイプ

の構築と並行し、台帳など

の各種港湾インフラデータ

の精査・統合について検討

を進める方針だ。

「港湾管理分野」と「港

湾インフラ分野」は、22年

度以降の社会実装を予定し

ている。

CONPASS全国展開へ

国土交通省が開発した新・港湾情報システム「CONPASS」が4月から、横浜港・南本牧コンテナターミナル（CT）で本格稼働を開始した。

CONPASSは、CTゲート前の混雑解消やコンテナトレーラーのCT滞在時間の短縮化を目的とするシステム。

これまで実施した試験運用では、PSカードを活用した入場受け付けで、搬出入票の提示などを省略することで、受け付けにかかる時間を搬出時で約2割削減するなどの効果があったという。

国土省では今後、南本牧での運用結果を踏まえ、横浜港の本牧BCなどのほか、他港への導入拡大を図る。

阪神港（神戸、大阪）では、導入に向けた第1回試験運用が3月に神戸港PC18で実施済みとなっており、今後大阪港夢洲コンテナターミナル（DCIT）でも試験を行う見通しだという。